

Japanese Utility Model Publication No. S38-28105

Publication Date: December 21, 1963

Applicant: Kamenosuke FUKUI

公告 昭 38.12.21 出願 昭 36.6.6 実願 昭 36-28796

出願人 考案者 福 井 亀 之 助 八尾市大字賀振1434番地14

(全2頁)

蝶 番 の 可 塑 性 体 リ ン グ

図面の簡単な説明

第1図は本案リングの斜面図、第2図は使用の状態を示す蝶番の軸部分の横断面図、第3図は本案リングを装した蝶番の正面図で一部を断而にて示したものである。

考案の詳細な説明

本案は、蝶番に使用する可塑性体をもつて成型したリングにおいて、回転止め突起を突設しかつ蝶番の軸脚の長さより長からざる脚筒をリングの一侧に突設した蝶番用可塑性体リングの構造に関するもので、その目的とする所は、従来のいわゆるリング入り蝶番の欠点を是正しようとするものである。即ち、従来のリング入り蝶番は単にリングを蝶番の軸脚の接合部に挿入しただけの構造であり、扉に蝶番を取り付ける際、軸芯を抜くとリングが転落する欠点があつた。本案はこれを防止すると共に、脚筒の長さを適当に選ぶ事により、軸脚のリーマー作業を簡易化せんとするものである。

図に就て本案の構造を説明すると、1は可塑性リング、2は可塑性リング1の脚筒、3は回転止め突起、4は軸芯、5は軸脚、6は蝶番、7,7'は蝶番6の羽根、8は軸脚5の巻き終り部空間である。

なお、回転止め突起3は軸脚5の巻き終り部の空間8に嵌入しており、脚筒2の長さは軸脚5の長さと同じか、またはやや短く作られている。

本案は、上述のような構造であるので、蝶番6の軸芯4を抜脱し羽根7,7'を分離しても、脚筒2が軸脚5に嵌入しているので、可塑性体リング1は脱落する事はないので、蝶番の取付工作が容易であると言う利点がある。

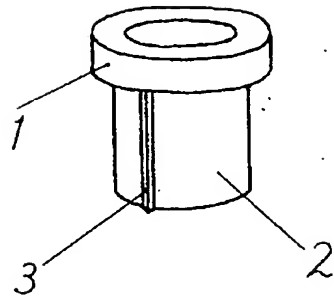
また回転止め突起3は巻き終り空間8に嵌入しているので、リング1は蝶番6の開閉に際し羽根7と共に廻転するので、リング1の上下両面が反対方向によじれる欠点がない。

また脚筒2の長さは軸脚5の長さに同じか、またはやや短く作られているので、普通型の蝶番から本案蝶番を製造する際には羽根7の2本の軸脚5にリーマーを通して脚筒2の壁厚だけ軸脚5の内径を削りとればよいので、製造工程が簡易である。

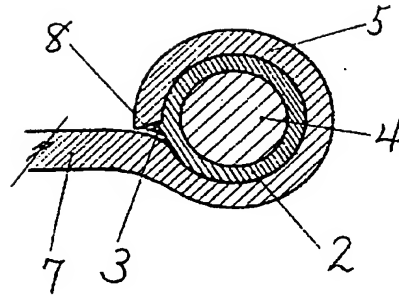
実用新案登録請求の範囲

蝶番に使用する可塑性体をもつて成型したリングにおいて、回転止め突起3を突設しかつ蝶番6の軸脚5の長さより長からざる脚筒2をリング1の一侧に突設した蝶番用可塑性体リングの構造。

第 1 図



第 2 図



第 3 図

